

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 九州財務局長

**【提出日】** 平成26年11月14日

**【四半期会計期間】** 第36期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

**【会社名】** 株式会社ヒガシマル

**【英訳名】** HIGASHIMARU CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 東 紘一郎

**【本店の所在の場所】** 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

**【電話番号】** 099-273-3859 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 木通 昌生

**【最寄りの連絡場所】** 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

**【電話番号】** 099-273-3859 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 木通 昌生

**【縦覧に供する場所】** 証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第35期 第2四半期 連結累計期間	第36期 第2四半期 連結累計期間	第35期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(千円)	5,140,472	5,773,771	9,804,165
経常利益	(千円)	277,236	400,002	460,092
四半期(当期)純利益	(千円)	266,584	220,533	431,423
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	270,888	214,836	442,312
純資産額	(千円)	5,162,536	5,511,155	5,333,960
総資産額	(千円)	11,876,891	11,831,599	11,067,122
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	56.66	46.87	91.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	43.5	46.6	48.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	438,870	222,236	1,123,355
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	476,808	103,580	600,723
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	433,065	104,033	138,884
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,700,716	1,741,509	1,696,220

回次		第35期 第2四半期 連結会計期間	第36期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	47.41	36.77

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社、以下同じ。)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策や金融政策などを背景に景気下振れリスクを支える効果があったものの、円安進行による原材料価格の上昇や消費税増税前の駆け込み需要の反動減等により個人消費の回復がやや弱含みで推移するなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループを取り巻く事業環境は、主原料（魚粉・小麦粉）価格が高止まりしているほか、消費者の節約・低価格志向が継続していることなどから、企業間の価格競争が続く厳しい経営環境で推移いたしました。

こうした環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動を展開するとともに、生産性の効率化、材料コストの削減及び低採算商品の見直しに努め、売上成長を模索しながら利益重視の経営に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は57億73百万円と前年同期と比べ6億33百万円（12.3%）の増収、営業利益は3億60百万円と前年同期と比べ1億10百万円（44.0%）の増益、経常利益は4億円と前年同期と比べ1億22百万円（44.3%）の増益、四半期純利益は特別利益・損失の発生がなかったこと（前年同期は特別利益「負のれん発生益」92百万円）や法人税等が増加したことから2億20百万円と前年同期と比べ46百万円（17.3%）の減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 水産事業

水産事業におきましては、中南米の輸入魚粉マーケットは、魚粉原料の生産量が低調で高騰していることや中国を主体にアジア各国向けの引き合いが多いことなどから、魚粉価格は高値取引で先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、低採算商品の見直しや原価低減を進めるなか、エビ飼料類及びハマチ飼料類は養殖飼育環境が良好であったことや生産物相場も前年度と比べ高値取引であったことなどを背景に、既存顧客のシェアアップ及び受託生産販売が順調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。マダイ飼料類は昨年の値上げ前駆け込み需要の反動減や価格競争等で他社メーカーに流出したことなどから売上高は前年同期を下回りました。また、マリテック株式会社（当社100%子会社、愛知県田原市）の売上高は、水産初期飼料の販売が伸びたことから前年同期を上回りました。

その結果、売上高は39億14百万円と前年同期と比べ2億26百万円（6.1%）の増収となりました。セグメント利益は3億83百万円と前年同期と比べ1億23百万円（47.5%）の増益となりました。

## 食品事業

食品事業におきましては、消費税率引き上げに伴い食料品の最寄品を中心に消費者の節約・低価格志向がさらに高まっていることに加え、原材料価格及び輸送コスト等の上昇から厳しい事業環境で推移いたしました。

このような状況のなか、積極的な販売活動としてテレビコマーシャルの放映や試食宣伝及びキャンペーン販売を実施するなど主力商品販売強化に努めた結果、即席めん類の売上高は前年同期を上回りましたが、乾麺類（うどん・そば・そうめん）及び皿うどん類は低調に推移いたしました。

コスモ食品株式会社（当社100%子会社、横浜市磯子区）は、定番商品の育成及び新商品の開発・販売に努めてまいりましたが、売上高は前年同期並みに推移いたしました。また、昨年7月に子会社化した株式会社向井珍味堂（当社100%子会社、大阪市平野区）の香辛調味料等の販売が売上高増に寄与しております。

その結果、売上高は18億59百万円と前年同期と比べ4億7百万円（28.0%）の増収となりました。セグメント利益は1億33百万円とほぼ前年同期並みの利益となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ7億64百万円増加し、118億31百万円となりました。これは、主として原材料及び貯蔵品が1億11百万円減少しましたが、受取手形及び売掛金が9億88百万円増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ5億87百万円増加し、63億20百万円となりました。これは、主として長期借入金3億3百万円減少しましたが、買掛金が6億80百万円、短期借入金2億33百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ1億77百万円増加し、55億11百万円となりました。これは、主として利益剰余金が1億82百万円増加したことなどによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前年同期と比べ40百万円増加し17億41百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によって得られた資金は、前年同期と比べ2億16百万円減少し2億22百万円となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益4億円、減価償却費1億42百万円、たな卸資産の減少額1億51百万円、仕入債務の増加額6億80百万円などの資金の増加要因があった一方で、売上債権の増加額9億88百万円、法人税等の支払額1億37百万円などの資金の減少要因があったことなどによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によって支出した資金は、前年同期と比べ3億73百万円減少し1億3百万円となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億21百万円があったことなどによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によって支出した資金は1億4百万円（前年同期は4億33百万円の収入）となりました。

主な要因は、短期借入金の増減額2億45百万円の資金の増加要因があった一方で、長期借入金の返済による支出3億14百万円、配当金の支払額33百万円などの資金の減少要因があったことなどによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

本年6月27日提出の有価証券報告書に記載のとおり、先行き不透明な経済環境や企業間競争が続く厳しい経営環境のなか、当社グループ丸となって、「企業収益力の向上」、「生産力・販売力の強化」、「研究開発の強化」、「マネジメントの改革」を推し進め、競争できる経営体質を目指してまいります。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は1億5百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		4,746		603,900		393,400

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東 紘一郎	鹿児島県日置市	628	13.23
有限会社ヒガシマル開発	鹿児島県日置市伊集院町徳重28番地	627	13.21
東 勤	鹿児島県鹿児島市	575	12.11
東 実	横浜市鶴見区	575	12.11
ヒガシマル共栄会	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地	259	5.46
株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町6-6	165	3.47
東 吉太郎	鹿児島県日置市	140	2.94
東 久江	鹿児島県日置市	140	2.94
鹿児島リース株式会社	鹿児島県鹿児島市山之口町1番10号	120	2.52
ヒガシマル従業員持株会	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地	70	1.48
計		3,299	69.53

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,705,000	47,050	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		47,050	

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	40,800		40,800	0.85
計		40,800		40,800	0.85

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,187,787	2,184,314
受取手形及び売掛金	1,379,581	2,368,015
有価証券	82,445	87,715
商品及び製品	443,260	424,891
仕掛品	118,076	96,026
原材料及び貯蔵品	1,149,748	1,038,495
その他	187,534	200,666
貸倒引当金	7,168	11,239
<b>流動資産合計</b>	<b>5,541,265</b>	<b>6,388,885</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	1,225,575	1,205,657
機械装置及び運搬具（純額）	650,800	625,266
土地	2,093,519	2,093,519
その他（純額）	61,171	77,213
<b>有形固定資産合計</b>	<b>4,031,066</b>	<b>4,001,657</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	409,313	385,236
その他	29,777	31,567
<b>無形固定資産合計</b>	<b>439,091</b>	<b>416,803</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資その他の資産	1,117,800	1,064,711
貸倒引当金	62,100	40,458
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>1,055,699</b>	<b>1,024,253</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>5,525,857</b>	<b>5,442,713</b>
<b>資産合計</b>	<b>11,067,122</b>	<b>11,831,599</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	397,260	1,077,345
短期借入金	1,976,562	2,210,524
未払法人税等	130,361	93,263
賞与引当金	114,518	128,702
その他	318,514	343,702
流動負債合計	2,937,218	3,853,538
固定負債		
長期借入金	2,135,880	1,832,572
役員退職慰労引当金	396,664	403,809
退職給付に係る負債	71,846	74,823
その他	191,553	155,701
固定負債合計	2,795,943	2,466,905
負債合計	5,733,162	6,320,444
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	4,201,484	4,384,377
自己株式	28,968	28,968
株主資本合計	5,234,815	5,417,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,787	85,161
繰延ヘッジ損益	39,357	8,285
その他の包括利益累計額合計	99,144	93,447
純資産合計	5,333,960	5,511,155
負債純資産合計	11,067,122	11,831,599

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	5,140,472	5,773,771
売上原価	4,051,495	4,543,139
売上総利益	1,088,976	1,230,632
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	209,464	179,176
貸倒引当金繰入額	31,441	5,057
給料及び賞与	201,631	225,830
賞与引当金繰入額	33,240	48,325
役員退職慰労引当金繰入額	6,160	7,845
その他	356,914	404,097
販売費及び一般管理費合計	838,852	870,332
営業利益	250,124	360,300
営業外収益		
受取利息	190	269
受取配当金	2,576	2,573
為替差益	12,848	24,118
受取保険金	2,252	15,900
雑収入	25,047	14,245
営業外収益合計	42,915	57,107
営業外費用		
支払利息	15,585	14,532
雑損失	217	2,872
営業外費用合計	15,803	17,404
経常利益	277,236	400,002
特別利益		
負ののれん発生益	92,765	-
特別利益合計	92,765	-
税金等調整前四半期純利益	370,002	400,002
法人税、住民税及び事業税	79,350	101,210
法人税等調整額	24,067	78,258
法人税等合計	103,418	179,468
少数株主損益調整前四半期純利益	266,584	220,533
四半期純利益	266,584	220,533

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	266,584	220,533
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,297	25,373
繰延ヘッジ損益	3,006	31,071
その他の包括利益合計	4,304	5,697
四半期包括利益	270,888	214,836
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	270,888	214,836
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	370,002	400,002
減価償却費	143,841	142,782
のれん償却額	24,077	24,077
負ののれん発生益	92,765	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	16,093	17,570
賞与引当金の増減額(は減少)	4,995	14,183
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,267	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	6,160	7,145
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	2,976
受取利息及び受取配当金	2,767	2,842
支払利息	15,585	14,532
為替差損益(は益)	11,779	30,666
受取保険金	2,252	15,900
売上債権の増減額(は増加)	499,327	988,434
たな卸資産の増減額(は増加)	100,979	151,671
仕入債務の増減額(は減少)	211,026	680,084
その他	52,231	16,919
小計	222,913	365,121
利息及び配当金の受取額	2,787	2,847
利息の支払額	16,939	12,117
保険金の受取額	2,259	2,825
法人税等の還付額	235,953	584
法人税等の支払額	8,105	137,023
営業活動によるキャッシュ・フロー	438,870	222,236
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	183,082	894,827
定期預金の払戻による収入	136,045	938,319
有形固定資産の取得による支出	128,323	121,051
有形固定資産の売却による収入	61,118	55
無形固定資産の取得による支出	1,280	5,927
投資有価証券の取得による支出	9,047	5,224
投資有価証券の売却及び償還による収入	7,180	1,650
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	357,555	-
その他	1,862	16,574
投資活動によるキャッシュ・フロー	476,808	103,580
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	280,000	245,000
長期借入れによる収入	1,030,000	-
長期借入金の返済による支出	278,020	314,346
ファイナンス・リース債務の返済による支出	1,273	1,273
配当金の支払額	37,640	33,413
財務活動によるキャッシュ・フロー	433,065	104,033
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,779	30,666
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	406,907	45,289
現金及び現金同等物の期首残高	1,293,809	1,696,220
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,700,716	1,741,509

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び売上原価の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。

したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	2,211,420千円	2,184,314千円
預入期間が3か月を超える定期預金	588,973	530,520
有価証券(外貨建MMF)	78,268	87,715
現金及び現金同等物	1,700,716	1,741,509

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,640	8	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,640	8	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,688,294	1,452,178	5,140,472		5,140,472
セグメント利益	259,767	133,595	393,362	116,126	277,236

(注) 1 セグメント利益の調整額 116,126千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費116,661千円、営業外収益9,823千円、営業外費用9,287千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間に株式会社向井珍味堂を連結子会社化したことを主因として、前連結会計年度の末日と比べて当第2四半期連結会計期間末の「食品事業」セグメント資産の金額が840,573千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「食品事業」セグメントにおいて、株式会社向井珍味堂の全株式を取得したことにより、新たに連結の範囲に含めております。これにより当第2四半期連結累計期間において特別利益に負ののれん発生益が92,765千円計上されております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,914,326	1,859,445	5,773,771		5,773,771
セグメント利益	383,217	133,214	516,431	116,428	400,002

(注) 1 セグメント利益の調整額 116,428千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費137,181千円、営業外収益29,454千円、営業外費用8,701千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益	56円66銭	46円87銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	266,584	220,533
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	266,584	220,533
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,705	4,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月13日

株式会社ヒガシマル  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西元 浩文 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 只隈 洋一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。